



UAゼンセン 安全衛生トピック

発行：UAゼンセン
労働条件局
(2025年8月1日)

2025年度標語 声掛けに 想いを込めて 互いに守る みんなの安全

8月 度 標 語 健康は あなたの財産、家族の望 みんなでつくろう 健康職場

災害級の暑さに備える(熱中症リスクへ備える)

連日40度に迫る”災害級の暑さ”が日本列島に吹き荒れています。”災害級の暑さ”とは、単なる猛暑を超え、健康や社会生活に深刻な影響を及ぼす異常な高温状態であり、暑さ指数(WBGT)が31度以上の状態を指します。この温度に達するとすべての生活活動において熱中症のリスクが高まるため、熱中症対策の徹底を労使でおこないましょう。

熱中症の原因と発生しやすい職場の条件

蒸し暑い環境

- 高温多湿で無風の屋外作業
- 空調設備のない屋内での作業
- 工作機械等が密集している工場内
- 炎天下・照り返しのある場所

身体負荷の高い作業

- 身体全体の筋力を使う作業
- 長時間にわたる作業
- 自己判断で休憩が取れない作業
- 飲料を摂取しづらい作業

体調が良くない

- 二日酔い
- 寝不足
- 下痢(脱水状態)
- 持病(糖尿病・心臓病等)

休憩場所がない

管理体制に不備

予防対策グッズ未使用

熱中症

体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温の調節ができなくなり、身体の機能が損なわれる。

暑さ指数(WBGT) Wet Bulb Globe Temperature (湿球黒球温度)

暑さ指数(WBGT)は、熱中症を予防することを目的とした指標です。作業場所における暑さ指数が基準値を超えるおそれがある場合には、熱中症になる可能性が高くなるので対策を講じる。

暑さ指数を確認する

熱中症予防情報サイトで確認できる

熱中症
予防情報サイト<https://www.wbgt.env.go.jp/>

暑さ指数を測定する

WBGT指数計で自分の職場を測定できる



詳しくはこちら

<https://neccyusho.mhlw.go.jp/img/04.pdf>

もしも熱中症にかかってしまったら

- 涼しい所で衣類をゆるめて安静にさせる。



- スポーツドリンクなどをとらせる。



- 濡れタオルを当てるなどあらゆる方法で身体を冷却する。

**ちゅうちょせず早めに医療機関へ！！**

熱中症をもっと詳しく知りたいとき

職場における熱中症予防情報

<https://neccyusho.mhlw.go.jp/>

熱中症関連情報

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/nettyuu/index.html

熱中症予防情報サイト

<https://www.wbgt.env.go.jp/>

熱中症から身を守るために

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/netsu.html>

電気使用安全月間

8月は「電気使用安全月間」です。私たちの生活のさまざまな場面で利用されている「電気」ですが、その使用方法を誤ると大変な事故につながります。電気を使用する場合、充電部の金属が見えているだけで電気そのものは見えないため、危険なものであるという認識が欠如しがちになります。さらに、低電圧でも体が濡れているなどの複合要因があれば感電死する危険が十分にあると言われおり、家庭用コンセントでも死に至る可能性があります。

災害が発生すると死亡に至る危険性が高い

2024年に発生した感電による休業4日以上之死傷災害は98件、死亡災害は6件でした。感電による労働災害の特徴の一つは、致死率（休業4日以上之死傷者数に対する死亡者数の割合）の高さです。感電による休業4日以上之死傷者数は全災害の0.1%、死亡者数は全災害の0.8%と件数自体は多くありませんが、致死率は高く感電による災害は被災すると、死亡に至る危険性が高いことがわかります。業種別でみると、感電による死傷災害が多く発生しているのは建設業と製造業です。事業所規模別では、小規模事業所ほど多く発生しているという調査結果もあります。また、感電による死傷災害は夏場に多く発生します。高温多湿や汗をかくことに加え、軽装で皮膚を多く露出するため、感電や電気事故などが発生しやすいと言われています。

災害の発生原因は、漏電や絶縁不良といった設備要因よりも、電気機器の取り扱いや安全管理体制の不備など、ソフト面がほとんどであるとの報告もあります。安全管理体制を確立し、安全教育や危険予知など基本的な対策をいかに実効性のあるものにしていくかが重要となります。



感電に注意！作業前は電気主任技術者へ連絡を！



<工事などの作業前の事前連絡のお願い>

例年、夏季は感電死傷事故が頻発しています。中には一見、電気に関連しない工事でも電気主任技術者への連絡がなかったことで事故に至ったケースが見られます。これから夏季を迎えるに当たり、安全に工事を行うためにも、電気設備やその付近で作業を行う場合は必ず電気主任技術者にご連絡ください。

① キュービクルや電気室の扉を開ける場合は連絡を！

通電状態で作業は感電のおそれがあるため大変危険です。

【注意が必要な作業】

- ・ 電力メーターやその銘板の確認作業
- ・ エレベーターなどの建築設備、エアコンなどの空調設備の電源接続作業
- ・ キュービクルの塗装作業

② キュービクルや電線の近くで作業する場合は連絡を！

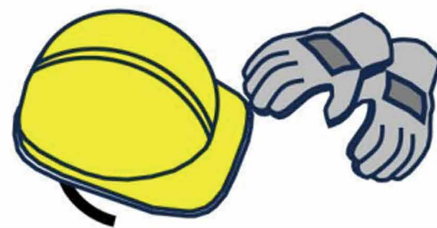
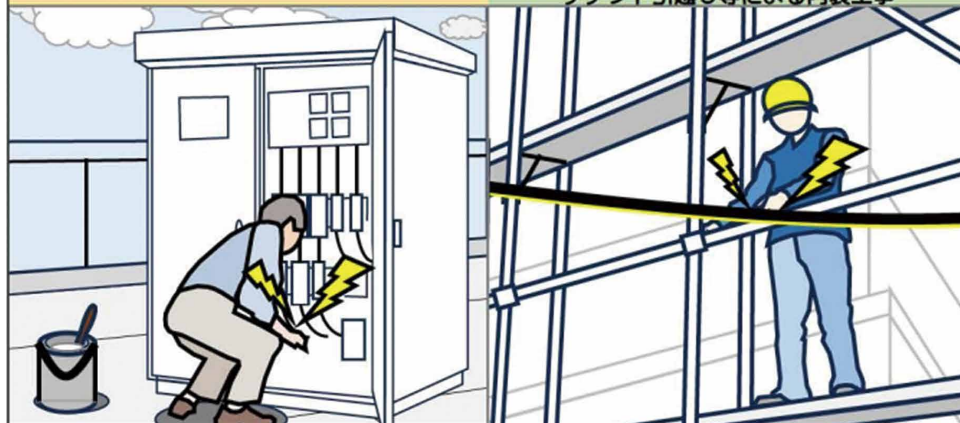
電気設備に直接触らなくても、付近に電気設備があると感電のおそれがあります。

【注意が必要な作業】

- ・ 足場の組立や解体作業
- ・ 建物の外装塗装作業
- ・ クレーンによる資材移動や高所作業車を使った剪定作業
- ・ テナント引越し等による内装工事

③ 安全対策を徹底しましょう

- ・ 万が一に備えて安全装備（ヘルメットや絶縁手袋などの絶縁用保護具）を着用しましょう
- ・ 肌の露出が少ない服装（長袖など）を心がけましょう
- ・ 作業前に電気主任技術者へ確認をしましょう



工事や作業の連絡は主任技術者へ

担当主任技術者 _____

連絡先 _____

(出典)感電死傷事故に関する注意喚起(経済産業省HP):

https://www.meti.go.jp/policy/safety_security/industrial_safety/oshirase/2024/06/20240628-1.html

食中毒にご用心

8月1日～31日は食品衛生月間(厚生労働省)



食品衛生月間は、食中毒事故の防止と衛生管理の向上を図るため、食品等事業者及び消費者に対し、食品衛生思想の普及・啓発、食品の安全性に関する情報提供、及びリスクコミュニケーションの推進を図ることを目的に、厚生労働省、都道府県、保健所設置市、特別区の主催により8月1日から8月31日までの1ヶ月間実施されます。

厚労省のホームページによれば、食中毒を防ぐためには食中毒菌を「付けない・増やさない・やっつける」の3原則を、①食品の購入、②家庭での保存、③下準備、④調理、⑤食事、⑥残った食品、の6つのポイントで実践することが必要です。職場においても食料品の保管には注意しましょう。



食中毒を引き起こす主な原因は「細菌」と「ウイルス」です

細菌もウイルスも目には見えない小さなものです。細菌は温度や湿度などの条件がそろえば食べ物の中で増殖し、その食べ物を食べるにより食中毒を引き起こします。一方、ウイルスは細菌のように食べ物の中では増殖しませんが、食べ物を通じて体内に入ると、人の腸管内で増殖し、食中毒を引き起こします。またウイルスは低温や乾燥した環境の中で長く生存します。

「細菌」が原因となる食中毒は夏場(6月から8月)に多く発生しています

その原因となる細菌の代表的なものは、**腸管出血性大腸菌(O157、O111など)**や**カンピロバクター**、**サルモネラ属菌**などです。食中毒を引き起こす細菌の多くは、室温(約20℃)で活発に増殖し始め、人間や動物の体温ぐらいの温度で増殖のスピードが最も速くなります。例えば、O157やO111などの場合は、7℃から8℃ぐらいから増殖し始め、35℃から40℃で最も増殖が活発になります。そして、施設別では飲食店での件数割合が全体の半分以上を占めているのが実態です。細菌が活発化する8月は、労使が一体となって職場での食中毒を発生させないよう取り組みましょう。

■腸管出血性大腸菌(O157、O111など)

牛や豚などの家畜の腸の中にいる病原大腸菌の一つです。毒性の強いベロ毒素を出し、腹痛や水のような下痢、出血性の下痢を引き起こします。主に食肉などに付着し、肉を生で食べたり、加熱不十分な肉を食べたりすることによって食中毒を発症します。

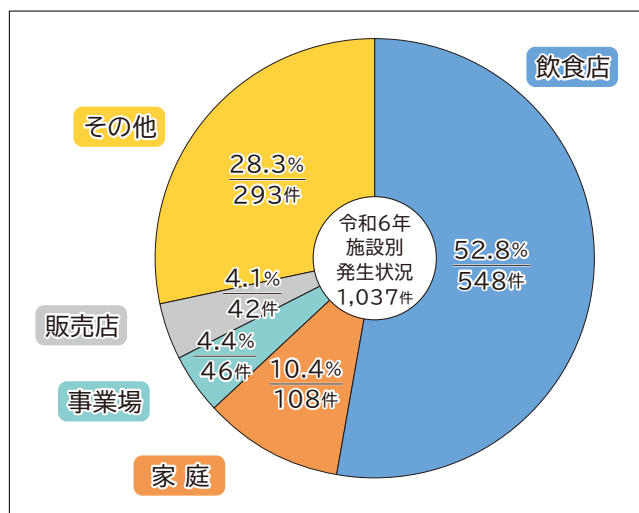
■カンピロバクター

牛や豚、鶏、猫や犬等の中にいる細菌です。この細菌が付着した肉を、生で食べたり、加熱不十分で食べたりすることによって、食中毒を発症します。また、吐き気や腹痛、水のような下痢が主な症状で、発熱や頭痛、筋肉痛、倦怠感などがみられます。

■サルモネラ属菌

牛や豚、鶏、猫や犬などの腸の中にいる細菌です。牛・豚・鶏などの食肉卵などが主な原因食品となる他、ペットやネズミなどによって、食べ物に菌が付着する場合があります。菌が付着した食べ物を食べてから半日から2日後ぐらいで胃腸炎、吐き気、おう吐、腹痛、下痢などの症状が現れます。

原因施設別事件数(令和6年)



資料出所:厚生労働省食中毒統計

UAゼンセン加盟組合での重大災害発生状況 ※2025年7月末時点

死亡災害／重大災害				火災・爆発事故	
事故の型	件数	死亡者	負傷者	件数	負傷者
合計	19件	2名	17名	1件	0名
はさまれ／巻き込まれ	14件	0名	14名		
転落	1件	1名	0名		
崩壊・倒壊	1件	1名	0名		
転倒	1件	0名	1名		
有害物との接触	1件	0名	1名		

(注) 1 2024年9月19日から2025年7月31日までにUAゼンセン本部へ報告があったもの。 2 「火災・爆発事故」は死亡者のない事故の件数と負傷者数。

厚生労働省「労働災害発生状況」 ※2025年5月7日 現在 ※6月の速報が未公開のため、前号と同様の内容となっております。

業種	2025年(1月～4月)		2024年(1月～4月)		対2024年比較	
	死傷者数(人)	構成比(%)	死傷者数(人)	構成比(%)	増減数(人)	増減数(%)
全産業	31,300	100.0	31,849	100.0	-549	-1.7
製造業	6,391	20.4	6,670	20.9	-279	-4.2
鉱業	58	0.2	69	0.2	-11	-15.9
建設業	3,145	10.0	3,379	10.6	-234	-6.9
交通運輸事業陸上	898	2.9	795	2.5	103	13.0
貨物運送事業	4,015	12.8	4,149	13.0	-134	-3.2
港湾運送業	90	0.3	91	0.3	-1	-1.1
林業	329	1.1	348	1.1	-19	-5.5
農業・畜産・水産業	680	2.2	672	2.1	8	1.2
第三次産業	15,694	50.1	15,676	49.2	18	0.1

(第三次産業内訳)

第三次産業	15,694	100.0	15,676	100.0	18	0.1
商業	5,184	33.0	5,013	32.0	171	3.4
うち小売業	3,705	—	3,764	—	-59	-1.6
金融・広告	225	1.4	244	1.6	-19	-7.8
通信	699	4.5	754	4.8	-55	-7.3
保健衛生業	3,765	24.0	3,681	23.5	84	2.3
うち社会福祉施設	2,705	—	2,766	—	-61	-2.2
接客・娯楽	2,257	14.4	2,238	14.3	19	0.8
うち飲食店	1,232	—	1,273	—	-41	-3.2
清掃・と畜	1,675	10.7	1,799	11.5	-124	-6.9
警備業	570	3.6	474	3.0	96	20.3
その他	1,319	8.4	1,473	9.4	-154	-10.5

(注) 1 2025年1月1日から2025年4月30日までに発生した労働災害について、2025年5月7日までに報告があったものを集計したもの。
2 「—」は減少を示す。
3 「陸上貨物運送事業」は、道路貨物運送事業と陸上貨物取扱業の合計値。
4 「第三次産業」については別掲。
5 新型コロナウイルス感染症のり患による労働災害を除いたもの。

8月の安全衛生行事

5月 1日～ 9月30日	STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン(厚生労働省、中央労働災害防止協会) ※7月 重点取組期間
1日～31日	電気使用安全月間(経済産業省) 食品衛生月間(厚生労働省)
1日～ 7日	防災週間(内閣府)※防災の日9月1日